



# 地歌『一杯』

作曲・菊重精峰

作詞・田坂州代

其れ晋書しんしよに曰く

「軒轅けんえんの右角うかくの南

酒旗しよあしといへる三つ星あり」

天あまに瞬またたく三つの星

李白りはく吟ぎんずる酒の星

「天若あまし酒を愛せざれば酒星しよせい天あまに在らず」とや

酒を生みたる恩人か

はたまた罪なる御仁ごにんかや

二人の知患者

儀狄ぎてき杜康とくわうの工夫なり

古人こじんも今人も

天の恵みの五穀ごこくを寿しゆぎ

醸かむせし酒のなかりせば

祈りも祭りも叶うまじ

有難ありがたき

一杯のお運びお運び様が一座いざして

一杯 いっぱい また一杯

二石ふたいし十斗じゆと百升ひやくしやう千合せんがふ

万勺ばんしやくお酌しやくのやったりとったり

一杯目には 色いろよき新酒

二杯目には 濁にごり酒

三杯目には さらりと解とけて

四杯目には 素面すめんも居ゐらず

五杯目には 豪儀ごうぎな大杯

六杯目には 呂律りよあやしき六調子

七杯目には 質入しちれしても酒を買い

八杯目には 鼻はなも赤あからみ ハハハと笑い

九杯目には クイクイクイクイ

十杯目には 「試ししに五升飲のんで来た」

百杯目には 百万石

千杯目には 千歳舞せんさいぶい

万杯目には 万々歳ばんばんざい

実りの秋に慶うらび溢あれ

胸一杯むねいぱいでももう一杯

酌しやくみ交まわしたる人の縁

実に有難ありがたき酒の徳

## 成立経緯

紀尾井ホールが、伝統的な形式や言葉づかいをふまえた邦楽の詞章の書き手を養成する  
目的で開講した「紀尾井邦楽塾」にて、最終的に五作品が選考され、邦楽界を牽引する  
演奏家たちに作曲が委嘱されて完成。その二つが今回上演される「一杯」である。